



5人は昨年5月から月1回ほど、秋田市大町の矢留彫金工房に集合。職人3人から助言を受けて制作を進めてきた。細い純銀線を2本より合わせ、指先で



秋田公立美術大付属高等学校の2年生5人が制作した秋田銀線細工の作品。純銀線を手作業で変形させてさまざまな模様を作った。左上から時計回りに桜、アイリスの花、チュウリップ、スズラン、球

美大付生5人制作 多彩な模様

県指定の伝統的工芸品「秋田銀線細工」の魅力を発信しようと、秋田公立美術大付属高等学校（秋田市）金属工芸コースの2年生5人が作品を制作した。美術の知識を生かして社会に貢献する同校のプロシエクト

「ビティファデザインラボ」の一環。作品は11日から3月15日まで、同市のJR秋田駅ほほろーどに展示している。

銀線細工 個性きらり

美大付生は2020年度から毎年、矢留彫金工房で銀線細工作り挑戦している。例年は学校の展示会で作品を披露していたが、今回はより多くの人に見てもらおうと秋田駅でも展示することにした。秋田商工会議所と連携し、市の補助金を活用した。

5人は小林茂輝さん、佐藤萌



々夏さん、宇佐美快さん、五十嵐ひなたさん、古田結香さん。球体の作品を手がけた小林さんは「1年近くかけて作ったので達成感がある。制作は難しかったけど、展示を見て秋田ならではの銀線細工に興味を持ってもらいたい」と話した。

（佐藤将弥）

銀線細工を制作した2年生5人。展示の前で記念撮影した

来月15日まで
ほほろーどに展示